

プログラム・抄録集

第35回

日本皮膚アレルギー学会

JSDA 総会

第30回

日本接触皮膚炎学会

JSCD 総会

合同学術大会

会期 2005年7月16日(土) - 17日(日)

会場 パシフィコ横浜

会長:池澤 善郎(横浜市立大学教授)

学会事務局:横浜市立大学環境免疫病態皮膚科学

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

TEL.045-787-2675 FAX.045-786-0243



A-2-4 環境抗原アレルギーにおける調湿木炭の敷設効果

森田栄伸¹⁾ 松尾裕彰¹⁾ 石飛裕司²⁾ 中村守彦³⁾ 小谷修²⁾ 安食裕子²⁾

1)島根大学医学部皮膚科 2)出雲土建株式会社 3)島根大学共同研究センター地域医学研究部門

コナヒョウヒダニやカビなどの環境抗原はアトピー性皮膚炎の重要な増悪因子と考えられている。調湿木炭は廃材チップを特定の炭化温度(約780℃)で処理した製品で、湿度を調節する調湿能力を有する。適量の木炭を床下や天井に敷設することで家屋の湿度を低下させることが可能であり、高湿度を好むヒョウヒダニやカビの生育を阻害することが期待される。本研究ではダニあるいはカビ特異IgE陽性のアトピー性皮膚炎患者6名宅にこの調湿木炭を敷設し、皮膚症状およびダニ、カビ特異IgEの推移を検討した。10ヶ月の観察により、6名中5名で著明な皮膚症状の改善がみられた。血清総IgE値、ダニ特異IgE値、カビ特異IgE値も低下する傾向がみられた。以上より、調湿木炭の敷設はアトピー性皮膚炎および環境抗原アレルギーの改善に有用である可能性が示された。